



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 233

パンデミック・民衆に惨殺された名医

人は見えない不安が続くとパニックになり、デマーツで動物と同じ凶暴集団になる。宗教異民族対立の虐殺、叩き壊し一揆、買いだめ騒動の集団ヒステリーである。房総太平洋岸の鴨川市で私はヘリポート付きの病院で2カ月も食道癌の闘病生活をした。鴨川と勝浦の間に小さな漁村、天津小湊がある。海面が激しく泡立って真鯛の大群が泳ぎ回る「鯛の浦」は鎌倉時代に「日蓮」が生まれて鯛の群れが祝福した伝説があり、天皇陛下も訪れている。

明治維新から9年後、中国からイギリス軍艦が長崎にコレラを持ち込み瞬く間に日本を汚染して大量の死者が出て、鴨川も400人超が罹患した。その2年前に「医師免許制」が作られて、祈祷師でも医術をしていたのを西洋医学国家試験合格者だけが医療可能と法制化し、漢方町医者コヨリは反感に満ちていた。コレラは3日で死ぬ「三日古呂利」と呼ばれて恐怖に陥れた。19年前も、安政の大獄の夏に江戸の死者だけで28万人、コレラ禍の記憶は生々しかった。沼野玄昌は幕末に静岡県コヨリの土族の次男に生まれ、明治維新時は32歳。母は実家の父が天津小湊で代々の漢方医で日蓮の信徒、玄昌を仏門に入れたいと寺に預けたが嫌がって寺を逃げ出すので実家へ養子に出す。漢方医の跡取りとして育つ玄昌は西洋医学に惹かれて千葉県佐倉の順天堂医学校に入り、犬を解剖のあとで犬鍋にして食べるなど10年間学ぶ。小湊に帰ると、古い因習と日蓮聖地の寒村、そこに悪夢のコレラが襲ってきた。医者たちは夜逃げや居留守で診療から逃げたが、玄昌は夜中でも駆けつけて治療と石灰をまいて消毒するなど勇敢な行動なのに尊敬されなかった。

骨格を知らずに臓器の診察はできない、本物の人骨が欲しい、病院の裏手は墓地、一月前に土葬された人体を夜中に盗掘して磨き上げて標本を作り、担いで政府の医学研修会で講師として出かけた。世間は大騒ぎで逮捕されるが裁判は無罪。医術を探求して病人を救いたい一念、旧来の考え方一新で新政府も努力して世界は大きく動き始めている!

と論陣を張ったのだ。西南の役で世情は騒然としていた。コレラ菌が発見されるのが6年後だから治療法は不明。飲み水から感染が広がると薄々気づき、消毒に石灰を井戸に投げ込むと噂が流れ始めた。玄昌が現れた場所はコレラが発生する、白い粉は毒だ、死体を解剖して腑分け教材にしている、墓あらしの奴は地獄の使者だ! 12月21日夜、鴨川の旅館で苦しんでいる病人を診てもらいたいと使いが来る。瀕死の患者を治療していると「玄昌を出せ!」と怒鳴る声が聞こえてくる。警官が玄昌に何か伝えようと薄暗い階段を昇ってくると後ろから鉢巻きを締めた十数人の男が恐ろしい形相で追いかけてくる。手には鎌や竹やりを手にして殺気立っている。「愚か者! 病人を治す医者が井戸に毒をまくわけないだろ」。殺気立つ暴徒との押し問答で一人が振り下ろした鍬が警官の額に当たって血が噴き出し、群衆は薄明かりの中で正気を失い一気にエスカレートする。我先にと棍棒を振り下ろし、鎌で切りかかり、竹やりで思いっきり玄昌の胴体を貫いた。血まみれになって倒れたのを目にするや暴徒は凄惨な現場に急に恐怖を抱き一目散に逃げだした。42歳の玄昌は遠のく意識を振り絞って体を引きずって小湊へ向かうが、すぐに冷たい年の瀬の川底に沈んでいった。新政府総帥の大久保利通は玄昌をコレラ予防に尽力したとして国から弔慰金を贈った。医師となった長男の釜吉は、日蓮聖人両親の墓所がある小湊の「妙蓮寺」に玄昌の碑を建立した。暴徒十数名は逮捕されて獄死した者が多かったと記録にある。

大震災などで世間が恐慌状態になって起こるのは“集団ヒステリー”だ。海外でよく見られる大地震直後の暴動や窃盗は千載一遇のチャンスとしてまかり通っているが、東日本大震災直後の我が国のように整然と秩序を維持する国民性もある。今回の「中共肺炎・CHINA コロリVIRUS!」が一日も早く終息することを願いながら、集団ヒステリーが起きないことを願いつつ、沼野玄昌の無念を弔い、合掌。